

## 研究ノート

# 児童養護施設退所者の大学進学後における困難

○梅木幹司\*1 福田みのり\*1 西本佳代\*1

キーワード：児童養護施設退所者、大学進学、自立支援

### 1 はじめに

児童福祉法は、第二次世界対戦後の混乱期の中で孤児、浮浪児問題など要保護児童対策を目的として1947（昭和22）年に制定された。その後、多くの法改正が行われ、現在もおお児童福祉の基本法として存在している。また、同法では保護者のいない場合などの養育を担う社会的養護についても規定し、その代表的な児童福祉施設が児童養護施設である。児童福祉法は、制定直後から長きにわたり、社会的養護の目的を「保護」や「養護」という子どもの受動的権利を主な視点として保障してきた。しかし、1997（平成9）年の第50次改正において、「自立支援」を視点とする保障へと転換した。その自立支援は、児童養護施設の法的根拠においても「退所した者に対する相談その他の自立のための援助を行うこと」と法文化し、児童養護施設は、退所した者に対しても継続した支援をする役割があることを規定している。

しかし、施設退所者の実態は必ずしも明らかではなく、児童養護施設が継続した支援を行う上においては、退所後の生活実態が明らかにされることが重要である。そこで、近年の施設退所者の実態を明らかにした二つの調査報告書がある。そのうちの一つは、東京都が行った「東京都における児童養護施設等退所者へのアンケート報告書」である<sup>1)</sup>。これは、東京都所管の児童養護施設、自立援助ホーム、児童自立支援施設、養育家庭を退所後1年から10年を経過した者(3,920人)のうち、施設などが連絡先を把握している者(1,778人)を対象として、平成22年12月から平成23年1月までを調査期間とし、アンケートによる回答の結果を報告書

としてまとめたものである。対象者のうち673人(有効回収率37.9%)から回答が得られている。この調査報告書の一部を紹介すると、施設退所直後にまず困ったことについては、「孤独感、孤立感」が最も多く29.6%、ついで「金銭管理」が25.4%であった。また、施設退所直後の困ったときに主に誰に相談したかとの質問には、施設職員が40.0%と最も多く、次いで誰にも相談しなかったが18.5%となっている。

もう一つの報告書は、大阪府が行った「施設退所児童支援のための実態調査報告書」である<sup>2)</sup>。これは、大阪府所管の児童福祉施設(乳児院、児童養護施設、情緒障害児短期治療施設、児童自立支援施設および母子生活支援施設)を概ね過去5年間に退所した施設経験者(634人)に平成23年6月10日から6月27日までを調査期間として調査票を配布し、161人(有効回収率25.4%)から回答が得られた報告書である。この調査報告書についても一部を紹介すると、退所後困ったことについては「生活全般の不安や将来について」と「生活費などの経済面」が24.3%と最も多く、ついで「学校や職場での人間関係」と「親との関係」が22.6%であった。また、困ったときの相談相手については、「学校の友達や職場の同僚」が30.4%と最も多く、「親」が25.2%、「退所した施設の職員」が21.7%であった。また、「相談できる人はいない」も10.4%あった。

上述した二つの報告書については、施設を退所した直後の困難について紹介したが、これら二つの報告書が結論づけていることの一つとして、経済的な問題を挙げている。その要因の一つとして低学歴と低収入の関係がある。厚生労働省が進学の現状を示した資料で

\*1 山口福祉文化大学 ライフデザイン学部

は、児童養護施設入所児童の高校への進学率は高くなったものの、大学等への進学率は全高卒者の 53.9%が進学することと比較すると 11.0%と依然として低い<sup>3)</sup>。このような状況を踏まえて、本学では平成 19 年度より独自の奨学制度を設けて、児童養護施設等退所者を受け入れ、大学での教育を提供している。しかし、大学への入学が彼らにとってのゴールではない。様々な問題を抱えながら学業に専念することが難しい彼らにとっては、社会へ巣立つための準備期間が必要であり、大学でも彼らを受け入れる以上、それに向けた支援体制の構築が必要である。

そこで、本研究の目的は、前述した二つの報告書が指摘していることを踏まえて、大学での彼らの生活実態を明らかにし、彼らへの支援体制の構築に向けた基礎資料を作成することにある。

## 2 分析の方法

2013 年 1 月に本学萩キャンパスに在籍する全学生 170 名を対象とした質問紙調査を実施した。質問紙は、1、2 年生は基礎ゼミの時間に配布し、3、4 年生は指導担当教員を通して配布し、事務局の回収 BOX に入れてもらった。回収率は 62.9%だった。

分析対象者の属性は、表 1 の通りである。調査対象者の性別は、男性 63.6%、女性 36.4%であり、男性の方が若干多くなっている。学年については、1 年生が 31.8%と多く、それに 2 年生の 26.2%、3 年生の 22.4%が続く。また、専攻（領域）は、子ども生活学専攻 34.9%、スポーツ健康福祉専攻 44.3%が中心となっている。

この調査対象者のうち、児童養護施設での生活経験のある学生は、32.4%（34 人）、生活経験のない学生は 67.6%（71 人）となっていた。専攻（領域）別にみても、子ども生活学専攻の学生の 62.2%（23 人）、スポーツ健康福祉専攻の学生の 6.7%（3 人）、建築システム専攻の学生の 20.0%（1 人）、ビジネス文化専攻の学生の 36.4%（4 人）、福祉心理領域の学

生の 50.0%（3 人）が児童養護施設での生活経験があるという内訳になる。

質問紙の項目としては、児童養護施設退所後に大学に進学した学生の実態を明らかにするため、諸属性の他、大学進学以前の学習状況、大学進学の際の経緯、大学入学以前の能力取得状況と入学直後に感じる困難、大学生生活を続ける上での困難、一週間の生活時間、経済状況、授業態度・意識、大学に求める支援、日常生活の様子、大学満足度、卒業後の進路希望について取り上げた。質問紙作成の際には、先述の「東京都における児童養護施設等退所者へのアンケート調査報告書」および、2008 年 11 月から 2009 年 2 月にかけて 11 大学約 4,500 名を対象に実施された学生調査（「大学生の学習経験・生活に関する調査」研究代表者：有本章）を参考にしている。そのため、本稿では紙幅の都合上取り上げていないが、他の児童養護施設退所者や他大学の学生との比較分析も可能である。

本稿では、まず学内に焦点を絞り、児童養護施設での生活経験のある学生とない学生との比較を行うこととした。本稿で報告する内容は、実施した質問項目の中でも特に差が生じていた、大学入学以前の能力取得状況と入学直後に感じる困難、大学生生活を続ける上で

表 1. 分析対象者の属性

|           |           |                |        |                |                |
|-----------|-----------|----------------|--------|----------------|----------------|
| 男性        | 女性        | 合計             |        |                |                |
| 63.6      | 36.4      | 100.0<br>(107) |        |                |                |
| 1 年生      | 2 年生      | 3 年生           | 4 年生   | 合計             |                |
| 31.8      | 26.2      | 22.4           | 19.6   | 100.0<br>(107) |                |
| 子ども生活学    | スポーツ健康福祉  | 建築システム         | ビジネス文化 | 福祉心理           | 合計             |
| 34.9      | 44.3      | 4.7            | 10.4   | 5.7            | 100.0<br>(106) |
| 施設での生活経験有 | 施設での生活経験有 | 合計             |        |                |                |
| 32.4      | 67.6      | 100.0<br>(105) |        |                |                |

注：表中の値は%。()内は実数。

の困難、授業態度・意識、日常生活の様子、大学満足度の5点である<sup>註1)</sup>。次節では、児童養護施設での生活経験のある学生（以下【経験有】と表記）とない学生（以下【経験無】と表記）についてそれら5点の平均値の差の検定を行い、結果について考察する。

### 3 調査結果および考察

#### 3.1 大学入学以前の能力取得状況と入学直後に感じる困難

まず、大学に入学する以前、自立に向けて彼らがどのような知識・技術を取得していたのか、また大学入学直後に自立に関してどのような困難を感じていたのか確認することからはじめたい。表2は、大学入学以前の知識・技術の取得状況と入学直後に感じる困難それぞれについて、【経験有】と【経験無】の平均値の差の検定を行った結果を示したものである。なお、回答は、大学入学以前の取得状況については、全く身についていなかった(=1)からとても身につけていた(=

4)までの4段階が用意されており、値が高いほど取得していることを示している。また、大学入学直後に感じる困難については、全くあてはまらない(=1)からとてもあてはまる(=4)までの4段階が用意されており、値が高いほど該当していることを表している。

先に、大学入学以前の知識・技術の取得状況についてみてみよう。この結果からは、自立に向けての知識・技術の取得について、児童養護施設での生活経験のある学生とない学生とで大きな差がないことがわかる。

【経験有】と【経験無】の平均値の差の検定を行ったが、有意な結果が得られた項目はひとつも見当たらなかった。

一方、大学入学直後に感じる困難については、児童養護施設での生活経験のある学生とない学生とで差が生じている。その項目は、特に、住居の探し方や公共料金の支払い方といった事務的な手続きと人間関係に関わるものに集中していた。具体的にみてみよう。

表2. 大学入学以前の取得状況と入学直後に感じる困難

|                 | 入学以前の取得状況   |             | 入学直後に感じる困難  |             |     |
|-----------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-----|
|                 | 経験有         | 経験無         | 経験有         | 経験無         |     |
| 掃除、洗濯の仕方        | 2.91 (0.98) | 2.78 (0.93) | 1.59 (0.89) | 1.72 (0.87) |     |
| 炊事の仕方           | 2.50 (0.86) | 2.58 (0.92) | 2.06 (1.04) | 2.10 (1.06) |     |
| 敬語の使い方          | 2.94 (0.78) | 3.01 (0.83) | 2.00 (0.95) | 1.81 (0.93) |     |
| 基本的な生活習慣        | 3.06 (0.83) | 2.82 (0.85) | 2.12 (0.98) | 1.94 (0.91) |     |
| 交通機関の利用の仕方      | 2.94 (0.81) | 2.76 (0.93) | 2.38 (1.10) | 2.01 (0.88) |     |
| 金銭管理            | 2.68 (0.81) | 2.80 (0.83) | 2.44 (1.05) | 2.29 (0.98) |     |
| 住民票や戸籍の手続き      | 2.15 (0.93) | 2.17 (0.99) | 2.76 (1.07) | 2.20 (1.05) | *   |
| 病院の利用の仕方        | 2.65 (1.01) | 2.75 (0.88) | 2.29 (0.97) | 1.78 (0.86) | **  |
| アルバイトの探し方       | 2.72 (0.96) | 2.33 (1.01) | 2.18 (1.01) | 2.07 (0.99) |     |
| 住居の探し方や契約の仕方    | 2.12 (1.05) | 2.00 (0.97) | 2.39 (1.06) | 1.75 (0.95) | **  |
| 電気・ガス・水道等の契約手続き | 2.06 (1.01) | 2.02 (1.00) | 2.48 (1.00) | 1.86 (0.96) | **  |
| 健康保険や年金についての知識  | 1.88 (0.99) | 1.88 (0.94) | 3.15 (0.97) | 2.22 (1.01) | *** |
| 孤独感、孤立感を感じる     |             |             | 2.94 (0.97) | 1.87 (1.04) | *** |
| 学内での人間関係        |             |             | 2.55 (1.03) | 1.84 (0.97) | **  |
| 寮内での人間関係        |             |             | 2.24 (0.94) | 1.53 (0.74) | *** |
| 身近な相談相手がいないこと   |             |             | 2.52 (1.00) | 1.75 (0.92) | *** |

註：\*\*\*はP<0.001、\*\*はP<0.01、\*はP<0.05。( )内の数字はSD。以下、同様に表記。

事務的な手続きに関しては、「住民票や戸籍の手続き」、「病院の利用の仕方」、「住居の探し方や契約の仕方」、「電気・ガス・水道等の契約手続き」、「健康保険や年金についての知識」が挙げられる。いずれの項目についても、【経験無】より【経験有】の値の方が高くなっており、各項目を困難に感じていることがわかる。

また、人間関係に関する項目としては、「孤独感、孤立感を感じる」、「学内での人間関係」、「寮内での人間関係」、「身近な相談相手がいないこと」が挙げられる。これらの項目についても【経験無】より【経験有】の値の方が高くなっており、各項目を困難に感じているといえる。

### 3. 2 大学生生活を続ける上での困難

児童養護施設を退所した後に大学進学した学生たちの多くは、そうでない学生に比べ、大学入学直後に事務手続きや人間関係に困難を感じやすい傾向にあることがわかった。では、大学入学後もその困難は続くのだろうか。続けて、大学生生活を続ける上での困難についてみてみよう。表3は、大学生生活を続ける上で感じている困難について、【経験有】と【経験無】の平均値の差の検定を行った結果を示したものである。なお、回答は、全くあてはまらない(=1)からとてもあてはまる(=4)までの4段階が用意されており、値が高いほど該当していることを表している。

この結果からは、児童養護施設での生活経験のある学生は、学生同士の関係に困難を感じていること、また、それだけでなく、生活費の負担やアルバイトと勉強との両立に困難を感じていることがわかる。「生活費の負担が大変である」、「学生同士の人間関係が大変である」、「アルバイトと勉強の両立が大変である」の項目はいずれも有意な結果が得られた。また、【経験無】よりも【経験有】の方が値が高い、すなわち各項目に該当するという結果を示していた。児童養護施設退所後に大学進学した学生は、入学直後に感じていた、学

表3. 大学生生活を続ける上での困難

|                     | 経験有         | 経験無         |     |
|---------------------|-------------|-------------|-----|
| 学費の負担が大変である         | 2.94 (0.90) | 2.55 (0.95) |     |
| 生活費の負担が大変である        | 3.06 (0.83) | 2.58 (0.79) | **  |
| 授業のレベルについていくのが大変である | 1.82 (0.73) | 2.22 (0.76) | *   |
| 学生同士の人間関係が大変である     | 2.48 (1.03) | 1.77 (0.75) | *** |
| 教員との人間関係が大変である      | 1.94 (0.75) | 1.86 (0.79) |     |
| アルバイトと勉強の両立が大変である   | 2.67 (1.05) | 1.84 (0.88) | *** |

内や寮内での人間関係に困難を感じ続けている。その一方で、大学生生活を始めると、彼らは自分一人で学費や生活費をやりくりしなければならなくなるため、新たに経済的な面での不安感がつけ加わると考えられる。

なお、ここで興味深いのは、必ずしも学習面において彼らが困難を感じているわけではないということである。「授業のレベルについていくのが大変である」の項目は、【経験有】1.82に対し【経験無】2.22となっており、児童養護施設での生活経験のない学生の方が授業に困難を感じる傾向にあることがわかる。本調査の回答者の約半数はスポーツ健康福祉専攻の学生が占める。スポーツ健康福祉に所属する学生の中に、児童養護施設退所者はほとんどいない。児童養護施設退所者の抱える学習面での困難さは、スポーツ健康福祉の学生が抱える困難さには及ばないということもここからは推察される。

### 3. 3 授業態度・意識

児童養護施設での生活経験のある学生は、ない学生に比べ、学生同士の人間関係や経済的な面に困難を感じる傾向にある。他方、授業についていくことに関しては、児童養護施設での生活経験のない学生の方が困難を感じる傾向にある。児童養護施設での生活経験のある学生は、学習面での困難を感じていないのだろうか。続けて彼らの授業態度・意識についてみてみよう。



表4. 授業態度・意識

|                        | 経験有         | 経験無            |
|------------------------|-------------|----------------|
| 授業はできるだけ休まないようにしている    | 3.59 (1.13) | 4.16 (1.02)*   |
| 楽しみにしている授業がある          | 3.29 (1.31) | 2.90 (1.20)    |
| 授業中に私語をすることが多い         | 3.35 (1.12) | 3.19 (1.03)    |
| きちんとノートを取りながら授業を聞いている  | 3.35 (1.15) | 3.25 (1.03)    |
| 授業中によく居眠りをする           | 3.26 (1.16) | 3.10 (1.08)    |
| 卒業に必要無い授業は履修しないようにしている | 3.26 (1.11) | 2.86 (1.06)    |
| 成績はできるだけ優を取ろうとしている     | 3.38 (1.10) | 3.24 (1.15)    |
| 授業中に携帯電話でメールの読み書きをする   | 3.59 (0.86) | 2.74 (1.09)*** |
| 授業に出席することを苦痛に感じる人が多い   | 3.38 (1.02) | 2.91 (1.16)*   |
| 大学の授業では幅広い知識を得られると思う   | 3.53 (1.11) | 3.49 (0.98)    |
| 大学の授業では専門的知識を得られると思う   | 3.71 (0.97) | 3.71 (1.02)    |
| 授業で考え方が変化したことがある       | 3.35 (1.07) | 3.35 (1.00)    |
| 大学の授業は役に立たないと思う        | 2.59 (0.89) | 2.57 (0.93)    |
| 自分の成績は良い方だと思う          | 2.47 (0.96) | 2.41 (1.03)    |

表4は、授業中の態度及び授業に対する考え方について、【経験有】と【経験無】の平均値の差の検定を行った結果を示したものである。なお、回答は、全くあてはまらない(=1)からとてもあてはまる(=5)までの5段階が用意されており、値が高いほど該当していることを表している。

ここで有意な結果が得られたのは、「授業はできるだけ休まないようにしている」、「授業中に携帯電話でメールの読み書きをする」、「授業に出席することを苦痛に感じる人が多い」の三つの項目である。「授業はできるだけ休まないようにしている」は【経験有】より【経験無】の方が値が高く、「授業中に携帯電話でメールの読み書きをする」、「授業に出席することを苦痛に感じる人が多い」については【経験無】より【経験有】の方が値が高かった。すなわち、児童養護施設での生活経験のある学生の方が、授業を休まないようにしようという気持ちを持たず、授業中に携帯電話でメールの読み書きをし、授業に出席することを苦痛に感じる人が多いという傾向を示している。

先述の通り、児童養護施設での生活経験のある学生よりもない学生の方が、授業のレベルについていくことが難しいと考える傾向にある。しかし、実際の授業の場面に目を移すと、児童養護施設での生活経験のある学生の方がない学生よりも、授業を休むべきではないという意識が低く、授業に出席することを苦痛に感じている。また、授業中に携帯メールを使うことも多い。これらの結果からは、授業のレベルそのものには問題がないものの、児童養護施設での生活経験のある学生たちの多くが授業に集中できていない様子が見えてくる。授業内容が理解できないわけではない。しかし、日常生活の問題や将来のこと、あるいは家庭のことなど気になる内容は多々ある。それらに影響され、授業どころではないのが彼らの実態ではなかろうか。

### 3.4 日常生活の様子

児童養護施設での生活経験のある学生たちは必ずしも授業に集中できているというわけではない。先にその要因の一つとして、授業以外の心配事を挙げた。彼らは日常生活において何の悩みを抱えているのだろうか。次に、日常生活の様子について確認したい。

表5は、日常生活の様子について、【経験有】と【経験無】の平均値の差の検定を行った結果を示したものである。なお、回答は、あてはまらない(=1)からあてはまる(=4)までの4段階が用意されており、値が高いほど該当していることを表している。

ここからまず、有意な結果が得られた項目をみていく。「友人のことで悩みがある」の項目で、【経験有】2.15に対し、【経験無】1.58になっていることがわかる。児童養護施設での生活経験のある学生の方が、ない学生よりも友人のことで悩みを感じやすい傾向にあるといえるだろう。

また、有意な結果は得られていないものの、この表からは、日常生活において他の面でも児童養護施設での生活経験のある学生の方がない学生よりも日常生活において困難を抱えている様子が見えてくる。

表5. 日常生活

|                    | 経験有         | 経験無         |
|--------------------|-------------|-------------|
| 大学ではいつも友人と一緒にいる    | 2.79 (0.73) | 3.13 (0.87) |
| 友人のことで悩みがある        | 2.15 (0.96) | 1.58 (0.69) |
| 教員のことで悩みがある        | 1.82 (0.87) | 1.62 (0.71) |
| 大学をやめたいと思うことがある    | 2.59 (1.13) | 2.22 (1.06) |
| 自分のやりたいことがみつからない   | 2.62 (1.16) | 2.26 (1.02) |
| 経済的に大学に通い続けることが難しい | 1.97 (0.90) | 1.71 (0.75) |

### 3.5 大学満足度

児童養護施設退所後に大学進学した学生は、大学入学直後から学内の人間関係に困難を感じており、大学生活においては生活費の確保等経済的困難も抱えている。さらに、やりたいことが見つからない等の日常生活における困難も多方面で抱え、授業に必ずしも集中できているわけではない。では、彼らは大学進学という選択をどのように考えているのだろうか。最後に、大学の教員及び大学生活全般についての満足度をみてみよう。

表6は、大学に関する満足度について、【経験有】と【経験無】の平均値の差の検定を行った結果を示したものである。なお、回答は、とても不満 (=1) からとても満足 (=5) までの5段階が用意されており、値が高いほど満足していることを表している。

この結果からは、児童養護施設での生活経験のある学生の方がない学生よりも大学生活に満足していない様子がうかがえる。「大学の教員」、「大学生活全般」いずれについても【経験無】よりも【経験有】の方が値が低くなっていた。児童養護施設を退所した後に大学に進学した学生については、保護者の代わりとして本学の教員が対応する場面がある。相対的に、児童養護施設での生活経験のない学生よりも“手厚い”ケアがなされているといえるだろう。しかしながら、その対応は彼らの満足度へとつながっていない。この現状をどう受け止めるかが今後の課題となるといえそうだ。

表6. 満足度

|        | 経験有         | 経験無         |
|--------|-------------|-------------|
| 大学の教員  | 3.15 (1.09) | 3.90 (0.89) |
| 大学生活全般 | 3.00 (1.02) | 3.58 (1.03) |

## 4 おわりに

最初に述べたように、児童養護施設退所者が高校卒業後に大学に進学する割合は低い。一般的にはいわゆる「全入時代」にあつて、その主たる原因は学費の負担が大きいという経済的理由であると考えられている。本学では、児童養護施設等退所者を対象とした奨学金制度を設け、学費の負担を軽減しているが、それだけで大学進学後の彼らの生活が安定したものとなるわけではないことが今回の調査で明らかになった。

本研究は、同一の大学に通う学生を調査対象者としている点で、生活条件や中学・高校時代の学力等において児童養護施設での生活経験者とそうでない者との間に大きな差がないことが予想される。実際、資料からも読み取れるように、「中学3年生ころの成績」「高校3年生ころの家や塾での1日の勉強時間」「高校3年生ころの成績」について、両者に有意な差はなかった。先行研究においては、児童養護施設等退所者のみを調査対象としていたり、一般の大学進学者との比較においてもその社会的背景要因まで考慮した研究はほとんど行われていない。そこで本稿では、ほぼ同一の社会的背景要因をもつ児童養護施設での生活経験の有無による分析を中心に行った。

その結果、特に児童養護施設退所者の特徴として、大学入学直後に事務的手続きや人間関係での困難を感じ、大学生活が始まれば生活費を確保するため、アルバイトと学業との両立に困難を感じている様子がうかがえた。

事務的手続きについては、入学以前に経験しているかどうかという問題ではないことが明らかとなったため、それ以外の要因を考える必要がある。「住民票や戸

籍の手続き」「電気・ガス・水道等の契約手続き」「健康保険や年金についての知識」などは、自宅で家族と同居している者はもちろんのこと、親元を離れて一人暮らしをしている者でも実際には親がそれらの手続きを代わりに行っている可能性も大きく、児童養護施設退所者に比べて困難を感じる機会そのものがないのかもしれない。また、退所者にとっては、施設職員という身近に相談できるおとながいなくなるのが、誰かに聴けば、あるいは少し調べれば分かるような事務手続きを困難に感じさせている可能性もある。

大学生活を続ける上では、先行研究で明らかになっているとおり、生活費の負担やアルバイトと勉強との両立に困難さを感じていることが確認された。学費の負担が軽減されても、ほとんどの児童養護施設退所者は生活費を自分でまかなっている。授業のレベルについていけないことはないものの、平均して週に22.7時間のアルバイトをしながら、一方でできるだけ休まずに授業に出席し、集中して授業を受けることが困難になっているとも考えられる。

さらに加えて学生同士の人間関係における困難さもうかびあがっている。経済的に大学に通い続けることが難しいということより、実際に友人のことで悩みがあると感じており、これは児童養護施設での生活経験がない者よりも顕著である。友人関係の悩みが授業態度等に影響を与えている可能性もある。身近に相談できる相手がいないことや人間関係での悩みが生活の多岐にわたり影響を及ぼしているのではないかと考えられる。そして、このような様々な困難を抱えている状態が大学教員や大学生活全般に対してそれほど満足していないという状況につながっていると考えられる。

児童養護施設退所者における自立支援の問題を考えたときに、これまでは高校・大学進学や就職に向けての支援が問題とされてきた。しかし、今後は、彼らがこのような困難をどのように乗り越えて大学生活を送るのか、また大学としてどのような支援ができるのかについて、さらに研究を深めていきたい。

[註]

註1 本論で紹介できなかった調査結果については、末尾に資料として掲載している。

[引用・参考文献]

- 1) 東京都福祉保健局；東京都における児童養護施設等退所者へのアンケート調査報告書，2011，<http://www.metro.tokyo.jp/INET/CHOUSA/2011/08/DATA/60l8u200.pdf> (2013.11.8)
- 2) 大阪市；施設退所児童支援のための実態調査報告書，2012，<http://www.city.osaka.lg.jp/kodomo/cmsfiles/contents/0000161/161428/houkokusyo.pdf> (2013.11.8)
- 3) 厚生労働省；社会的養護の現状について（参考資料），2013，[http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/syakaiteki\\_yougo/dl/yougo\\_genjou\\_01.pdf](http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/syakaiteki_yougo/dl/yougo_genjou_01.pdf) (2013.11.8)

## 謝辞

本研究は、平成24年度山口福祉文化大学学部長裁量経費の補助を受けて実施した。また、アンケートの配布の際には各教員の皆様にご協力いただいた。皆様に心よりお礼申し上げます。

## 資料

### ○本文でとりあげなかった質問項目の分布（児童養護施設での生活経験の有無別）及び平均値

$\chi^2$  二乗検定または t 検定の結果、経験の有無による差がみられた場合に記号で示している

表 I - I. 中学3年生のころの成績

|            | 上の方   | 中の上   | 中くらい  | 中の下   | 下の方   | 合計     |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 経験有 (n=33) | 12.1% | 27.3% | 30.3% | 9.1%  | 21.2% | 100.0% |
| 経験無 (n=70) | 5.7%  | 12.9% | 30.0% | 27.1% | 24.3% | 100.0% |
| 合計 (n=103) | 7.8%  | 17.5% | 30.1% | 21.4% | 23.3% | 100.0% |

表 I - II. 高校の課程

|            | 普通科系  | 商業科系  | 工業科系 | 農業科系 | 家政科系 | 福祉系  | 総合学科  | その他  | 合計     |
|------------|-------|-------|------|------|------|------|-------|------|--------|
| 経験有 (n=34) | 52.9% | 14.7% | 2.9% | 2.9% | 2.9% | 5.9% | 14.7% | 2.9% | 100.0% |
| 経験無 (n=71) | 64.8% | 5.6%  | 8.5% | 5.6% | 0.0% | 4.2% | 2.8%  | 8.5% | 100.0% |
| 合計 (n=105) | 61.0% | 8.6%  | 6.7% | 4.8% | 1.0% | 4.8% | 6.7%  | 6.7% | 100.0% |

表 I - III. 高校3年生のころの一日の平均勉強時間

|         | 経験有         | 経験無         |
|---------|-------------|-------------|
| 高3 勉強時間 | 1.25 (1.30) | 0.95 (1.24) |

表 I - IV. 高校3年生のころの成績

|            | 上の方   | 中の上   | 中くらい  | 中の下   | 下の方   | 合計     |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 経験有 (n=33) | 21.2% | 24.2% | 36.4% | 6.1%  | 12.1% | 100.0% |
| 経験無 (n=70) | 8.6%  | 22.9% | 32.9% | 15.7% | 20.0% | 100.0% |
| 合計 (n=103) | 12.6% | 23.3% | 34.0% | 12.6% | 17.5% | 100.0% |

表 II - I. 大学進学を決めた時期

|            | 中学入学以前 | 中学校のとき | 高校のとき | その他  | 合計     |
|------------|--------|--------|-------|------|--------|
| 経験有 (n=34) | 11.8%  | 11.8%  | 73.5% | 2.9% | 100.0% |
| 経験無 (n=71) | 0.0%   | 8.5%   | 87.3% | 4.2% | 100.0% |
| 合計 (n=105) | 3.8%   | 9.5%   | 82.9% | 3.8% | 100.0% |

\*



表Ⅱ－Ⅱ. 大学進学について最も相談した相手

|            | 親     | 兄弟   | 友人   | 児童養護施設<br>の職員 | 学校の教員 | その他  | 合計     |     |
|------------|-------|------|------|---------------|-------|------|--------|-----|
| 経験有 (n=32) | 0.0%  | 0.0% | 3.1% | 90.6%         | 3.1%  | 3.1% | 100.0% | *** |
| 経験無 (n=70) | 68.6% | 1.4% | 5.7% | 0.0%          | 22.9% | 1.4% | 100.0% |     |
| 合計 (n=102) | 47.1% | 1.0% | 4.9% | 28.4%         | 16.7% | 2.0% | 100.0% |     |

表Ⅱ－Ⅲ. 山口福祉文化大学を選んだ理由

|            | 学びたい領域<br>があるから | 取りたい資格<br>があるから | やりたい部活<br>があるから | 学費が<br>安いから | その他   | 合計     |     |
|------------|-----------------|-----------------|-----------------|-------------|-------|--------|-----|
| 経験有 (n=32) | 9.4%            | 12.5%           | 0.0%            | 68.8%       | 9.4%  | 100.0% | *** |
| 経験無 (n=69) | 5.8%            | 13.0%           | 53.6%           | 13.0%       | 14.5% | 100.0% |     |
| 合計 (n=101) | 6.9%            | 12.9%           | 36.6%           | 30.7%       | 12.9% | 100.0% |     |

表Ⅱ－Ⅳ. 山口福祉文化大学への進学希望

|            | 第一<br>志望 | 第一志望<br>以外 | 合計     |
|------------|----------|------------|--------|
| 経験有 (n=34) | 79.4%    | 20.6%      | 100.0% |
| 経験無 (n=71) | 64.8%    | 35.2%      | 100.0% |
| 合計 (n=105) | 69.5%    | 30.5%      | 100.0% |

表Ⅲ－Ⅰ. 一週間の平均生活時間

|                    | 経験有           | 経験無          |     |
|--------------------|---------------|--------------|-----|
| 授業等への出席            | 14.35 (5.91)  | 9.99 (6.80)  | **  |
| 授業等の準備・復習          | 1.12 (1.49)   | 0.39 (0.98)  | *   |
| 授業とは関係のない学習        | 1.08 (2.10)   | 0.76 (1.61)  |     |
| サークル活動・部活動・同好<br>会 | 1.89 (3.76)   | 6.87 (8.26)  | *** |
| アルバイト              | 21.56 (16.61) | 7.41 (11.48) | *** |

表IV-I. 一か月の平均収入額

| 奨学金        | なし    | 1万円未満 | 1万円以上<br>3万円未満 | 3万円以上<br>5万円未満 | 5万円以上<br>7万円未満 | 7万円以上<br>9万円未満 | 9万円以上 | わからない | 合計     |     |
|------------|-------|-------|----------------|----------------|----------------|----------------|-------|-------|--------|-----|
| 経験有 (n=34) | 5.9%  | 0.0%  | 5.9%           | 0.0%           | 44.1%          | 14.7%          | 20.6% | 8.8%  | 100.0% | *** |
| 経験無 (n=69) | 50.7% | 0.0%  | 2.9%           | 2.9%           | 10.1%          | 7.2%           | 14.5% | 11.6% | 100.0% |     |
| 合計 (n=103) | 35.9% | 0.0%  | 3.9%           | 1.9%           | 21.4%          | 9.7%           | 16.5% | 10.7% | 100.0% |     |
| アルバイト      | なし    | 1万円未満 | 1万円以上<br>3万円未満 | 3万円以上<br>5万円未満 | 5万円以上<br>7万円未満 | 7万円以上<br>9万円未満 | 9万円以上 | わからない | 合計     |     |
| 経験有 (n=33) | 3.0%  | 0.0%  | 3.0%           | 3.0%           | 27.3%          | 36.4%          | 24.2% | 3.0%  | 100.0% | *** |
| 経験無 (n=67) | 46.3% | 4.5%  | 13.4%          | 7.5%           | 11.9%          | 6.0%           | 9.0%  | 1.5%  | 100.0% |     |
| 合計 (n=100) | 32.0% | 3.0%  | 10.0%          | 6.0%           | 17.0%          | 16.0%          | 14.0% | 2.0%  | 100.0% |     |
| 家庭からの仕送り   | なし    | 1万円未満 | 1万円以上<br>3万円未満 | 3万円以上<br>5万円未満 | 5万円以上<br>7万円未満 | 7万円以上<br>9万円未満 | 9万円以上 | わからない | 合計     |     |
| 経験有 (n=33) | 87.9% | 6.1%  | 6.1%           | 0.0%           | 0.0%           | 0.0%           | 0.0%  | 0.0%  | 100.0% | *   |
| 経験無 (n=68) | 48.5% | 7.4%  | 17.6%          | 4.4%           | 10.3%          | 2.9%           | 5.9%  | 2.9%  | 100.0% |     |
| 合計 (n=101) | 61.4% | 6.9%  | 13.9%          | 3.0%           | 6.9%           | 2.0%           | 4.0%  | 2.0%  | 100.0% |     |

表IV-II. 現在のアルバイト

|              | ひとつ<br>している | 複数している | して<br>いない | 合計     |     |
|--------------|-------------|--------|-----------|--------|-----|
| 生活経験有 (n=34) | 64.7%       | 26.5%  | 8.8%      | 100.0% | *** |
| 生活経験無 (n=69) | 44.9%       | 7.2%   | 47.8%     | 100.0% |     |
| 合計 (n=103)   | 51.5%       | 13.6%  | 35.0%     | 100.0% |     |

表IV-III. アルバイト収入の主な用途

| 生活費         |       |       |        | 家族等への仕送り |            |       |        |        |     |
|-------------|-------|-------|--------|----------|------------|-------|--------|--------|-----|
|             | 選択    | 非選択   | 合計     |          | 選択         | 非選択   | 合計     |        |     |
| 経験有 (n=34)  | 91.2% | 8.8%  | 100.0% | ***      | 経験有 (n=34) | 5.9%  | 94.1%  | 100.0% | *   |
| 経験無 (n=65)  | 33.8% | 66.2% | 100.0% |          | 経験無 (n=65) | 0.0%  | 100.0% | 100.0% |     |
| 合計 (n=99)   | 53.5% | 46.5% | 100.0% |          | 合計 (n=99)  | 2.0%  | 98.0%  | 100.0% |     |
| 学費          |       |       |        | 娯楽・交際費   |            |       |        |        |     |
|             | 選択    | 非選択   | 合計     |          | 選択         | 非選択   | 合計     |        |     |
| 経験有 (n=34)  | 50.0% | 50.0% | 100.0% | ***      | 経験有 (n=34) | 64.7% | 35.3%  | 100.0% | *** |
| 経験無 (n=65)  | 6.2%  | 93.8% | 100.0% |          | 経験無 (n=65) | 29.2% | 70.8%  | 100.0% |     |
| 合計 (n=99)   | 21.2% | 78.8% | 100.0% |          | 合計 (n=99)  | 41.4% | 58.6%  | 100.0% |     |
| 大学卒業後に向けた貯金 |       |       |        |          |            |       |        |        |     |
|             | 選択    | 非選択   | 合計     |          | 選択         | 非選択   | 合計     |        |     |
| 経験有 (n=34)  | 47.1% | 52.9% | 100.0% | ***      |            |       |        |        |     |
| 経験無 (n=65)  | 13.8% | 86.2% | 100.0% |          |            |       |        |        |     |
| 合計 (n=99)   | 25.3% | 74.7% | 100.0% |          |            |       |        |        |     |

表IV-IV. 利用している奨学金

|            | 給付    | 貸与    | 給付と貸与<br>両方 | わからない | 奨学金を利用<br>していない | 合計     |     |
|------------|-------|-------|-------------|-------|-----------------|--------|-----|
| 経験有 (n=34) | 8.8%  | 58.8% | 26.5%       | 0.0%  | 5.9%            | 100.0% | *** |
| 経験無 (n=68) | 10.3% | 26.5% | 4.4%        | 22.1% | 36.8%           | 100.0% |     |
| 合計 (n=102) | 9.8%  | 37.3% | 11.8%       | 14.7% | 26.5%           | 100.0% |     |

表IV-V. 利用している奨学金 (単位: 万)

|       | 経験有         | 経験無         |
|-------|-------------|-------------|
| 奨学金月額 | 7.56 (2.42) | 7.80 (3.08) |

表IV-VI. 奨学金の四年間の総計金額がわかる

|            | わかる   | わから<br>ない | 合計     |
|------------|-------|-----------|--------|
| 経験有 (n=32) | 46.9% | 53.1%     | 100.0% |
| 経験無 (n=34) | 50.0% | 50.0%     | 100.0% |
| 合計 (n=66)  | 48.5% | 51.5%     | 100.0% |

表IV-VII. 奨学金の返還方法を考えたことがある

|            | ある    | ない    | 給付の<br>奨学金 | 合計     |
|------------|-------|-------|------------|--------|
| 経験有 (n=32) | 84.4% | 9.4%  | 6.3%       | 100.0% |
| 経験無 (n=34) | 58.8% | 23.5% | 17.6%      | 100.0% |
| 合計 (n=66)  | 71.2% | 16.7% | 12.1%      | 100.0% |

表V. 卒業後の進路希望

|            | 民間企業に就<br>職する | 公務員になる | 幼稚園・保育<br>所に勤務する | 児童養護施設<br>の職員になる | 決めていない | その他   | 合計     |
|------------|---------------|--------|------------------|------------------|--------|-------|--------|
| 経験有 (n=32) | 37.5%         | 12.5%  | 9.4%             | 15.6%            | 15.6%  | 9.4%  | 100.0% |
| 経験無 (n=65) | 27.7%         | 16.9%  | 6.2%             | 1.5%             | 30.8%  | 16.9% | 100.0% |
| 合計 (n=97)  | 30.9%         | 15.5%  | 7.2%             | 6.2%             | 25.8%  | 14.4% | 100.0% |